

第六十四回句会 俳句

【高点句】

☆コロナ禍の春定年も小事些事

〈青蛙〉

☆蜷汁無言の部屋の殻の音

〈郁代〉

☆梅雨の天気図松山はこの辺り

〈明美〉

【各自一句】

・汗だくの信号を待ち風を待ち

〈安津子〉

・六月や街に色増え音の増え

〈明美〉

・城壁の鋭角に添ひ夏燕

〈眞澄〉

・どつちみちステイホームで長梅雨で

〈伸子〉

・コロナの禍暮らし一変夏に入る

〈童心〉

・水槽の海月自由か不自由か

〈撫子〉

・花辛夷いよよ本番わが老ひの

〈千恵〉

・梅雨寒や外壁叩く鎖樋

〈静〉

・春筍のはちみつ色に剥かれたる

〈郁代〉

・毛虫居り嫁の弱点見つけたり

〈緑〉

・紫陽花の持ち帰り待つ小道かな

〈隆司〉

・春暁や飛鳥のお湯に身を沈む

〈哲雄〉

・耕牛の畜舎の中の耕耘機

〈一馬〉

・花曇り散歩し尽くし今日は右

〈青蛙〉

・紫陽花の色抜けてなほ禍の続き

〈莫院〉

*以上、46句（3句ずつ15名、1句1名）より、選句は16名により4句ずつ

*高点句は、高得点の句より3句（今回は第2位が同点で2句）

*各自一句は、得点に関わらず、作者自身の選出による（得点順ではなく、俳句一覧表に偶然記載された順に掲載）